

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したようになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム ひばり
(ユニット名)	友
所在地 (県・市町村名)	鹿児島県鹿児島市吉野町2042番地
記入者名 (管理者)	梶 久美
記入日	平成 22 年 1 月 15 日

(様式1)

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを 支えていくサービスとして、事業所独自の理念 をつくりあげている	理念があり、玄関に掲示してある。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践 に向けて日々取り組んでいる	毎朝、申し送りの際に理念の唱和を行ない、実践 できるように取り組んでいる。	○ 唱和は行っているが、ひとりひとりが内 容など意味が把握できているか確認す る。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続ける ことを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に 理解してもらえよう取り組んでいる	玄関に掲示してあるので、来訪者の方達にも見て もらっている、地域交流会や運営推進会議等でも 通達しているが完全とは言えない。	○
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をか け合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような 日常的なつきあいができるように努めている	地域交流会を通じて、顔なじみになれるよう努力 しているが、日常的なお付き合いの浸透が、まだ 不足している。	○ 子ども会、老人クラブ等の活動を利用し たり、交流を図ったり浸透させてゆきた い、掲示板での連絡も行う。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員とし て、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加 し、地元の人々と交流することに努めている	地域交流会を通じて、呼びかけを行っているが、 地域の行事への参加は、まだまだ少ない	○ 地域の行事などへ、少しずつ参加できる よう取り組んでゆく、自治会などへ入れ るようにさらに足を運ぶ。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	認知症サポーターを養成したり、職員もサポーターになっている。	○	始めたばかりで今後回数を増やす様にしていきたい。
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価での指摘については、すぐに改善できるよう取り組んでいるが、評価が年に1回のために形式的になっている。	○	自己評価を年に2～3回実施して、ケアの質の向上に努めてゆきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の家族や地域の民生委員の方達にも参加してもらい実施しているが意見をサービスの向上に活かしている場面が少ない。	○	運営推進会議の進め方の検討なども行っていく。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターの方に講演してしてもらったり、少しずつ関わりをもって取り組んでいる。	○	地域包括支援センターとの関わりは少しずつ増えてきたが、市町村との連携も行っていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	制度については聞いた事がある程度の職員が多い、内容までは十分に理解できていない。また、現在活用されている方はいらっしゃらない。	○	勉強会を実施してゆきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や勉強会などで考える機会があり学んでいる、また、個々の身体や精神状態の変化に気付けるよう、観察や申し送りでも共有している。	○	今後も継続して行っていきたい。また、研修などにも積極的に参加できるようにする。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前より詳しく説明を行い、理解していただいた上で署名や捺印をしてもらっている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	委員会を中心に利用者の意見、不満に対して充分に対応できているとは言い切れない部分がある。	○	些細な事でも耳を傾けて、小さな不満などでも対応できるように委員会の充実を図りたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	変化のあった事などは、その日の内に家族へ知らせている、また、毎月家族へ便りを送り近況報告を行っている。	○	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の苦情に関しては、委員会や管理者を中心に対応している	○	意見をいただく機会も少ないため、意見箱を設置して気軽に遠慮なく意見が出されるような取り組みを行う
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月2回の勉強会や会議などで意見交換できる機会を設けてあるが、運営に関する意見交換はあまり少ない、アンケートでの調査も行うが、少人数のため匿名での記入も難しい。	○	運営の関する意見は、なかなか難しいが、業務での見直しについては、定期的に設けて改善してゆきたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	変則勤務体制にて対応している、重度化しつつある現状を考え、職員の補充も行っているが調整が難しいためハードな勤務体制もありえる。	○	異動などに対する人員配置や、病欠に対する人員配置などがスムーズに出来るよう各ユニットでの交替制も必要と考えている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動は必要最低限で行っている、離職者がある場合は、次の職員も早めに補充して関係作りに努めている。	○	異動は、やむおえず行う場合があるので、離職者が少ない様に行っていく。
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修や法人内の研修に参加しているが、ニーズに合っているかは疑問な点もある	○	個人のレベルに応じて研修プログラムを作り、段階的に育成してゆきたい、マニュアルを作成中である。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	少しずつ、地域の事業者との交流は行事へ参加するなどできている。	○	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	個人面談を年に2回行っている、伝えても改善されない事もある	○	少しずつ改善されていけば、働きやすい職場になると思う
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	目標を立てて、実行できるようにしている、勤務体制に偏りがあり離職する職員もいる。勤務体制の検討が必要になる。	○	半年ごとに個人面談は行っているが、改善出来る様面談、話し合いの場を増やしていけるようにする。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	数回の面談を設けて、納得されるまである程度の関係がもてるように行っている、信頼関係が作れるように時間をかけて会話をしたり、意見が反映できるように努めている。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	数回の面談を設けて、納得されるまである程度の関係がもてるように行っている、信頼関係が作れるように時間をかけて会話をしたり、意見が反映できるように努めている。	○	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けたときに、その方のニーズを出来る限りキャッチして対応している様に行っているが、完全とは言えない。	○	話を良く聞き、ニーズにあった他のサービスなどもお知らせする。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に面会に行ったり、入居までに、本人や家族の方に見学に来ていただき不安の解消に努めている。	○	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	行事食や郷土料理の作り方、家庭菜園の仕方など、学ぶ姿勢をもって関係づくりに努めている。	○	利用者の方が以前にされていた事や思い出などを、まだまだ探りながら再び経験できる場面作りに努めたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	便りを毎月送ったり、写真を掲示したり、また、家族会の参加や面会時に日常の様子などを伝えたり情報を共有しながら家族の方の思いになって接している。	○	家族会以外でも、行事への参加、外出など家族の方に一緒に参加してもらえる機会を増やしたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族会を通じて、家族同士の交流を行ったりして、より良い関係が保てるように支援している、面会が少ない方など電話連絡を行っている。	○	関わりの少なくなってきているご家族に対してにアプローチを工夫を行っていけるようにする。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人や家族からの要望や情報により、いつでも訪問していただけるようにしている。	○	
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士、お互いの関係を把握して気の合う方との座席への配慮や余暇時間、お互いの居室での交流も行えるように支援している。	○	
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約が終了される場合、殆どが死亡のため出来ていない。	○	家族に対しては、契約終了後も何らかの形でお付き合いできるようにアプローチしてゆきたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当の職員で利用者の希望や意向に沿った暮らしをしてもらえるよう把握に努めている、ケア会議で検討して実施を行っている。	○	言葉にされない思いを知る、気付けるように努めてゆきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族の方、以前のサービス提供事業者などから情報を得ている。	○	今ある情報以外にも、得られるよう努めてゆく。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者それぞれの行動、考え方、性格、能力も把握できている部分もあるが、完全とは言えない。また、マンネリしているところもある。	○	個々人の状態や過ごし方を本人様と向き合う中で考えていける様にしていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の意向をに反映できるようにしている。	○	家族の方にカンファレンスに参加してもらえるように呼びかけてゆく。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヵ月毎、また、状態の変化に応じて見直しを行っている。	○	状態の変化に速やかに対応して、現状に即したプラン作りを行ってゆきたい。
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録や連絡ノートを活用して情報の共有はできている、プランに沿った記録では不十分な点もある。	○	プランに沿った記録の仕方など職員へ浸透させてゆく。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の方へ相談して、職員が同行しているなど臨機応変に対応している。	○	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員、ボランティア、消防との協力をいただいている部分もあるがまだまだである。	○	
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在のところ必要性の方がいらっしゃらない為、行っていない。	○	必要性のある方がいらっしゃる場合には、柔軟に対応していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在のところ必要性の方がいらっしゃらない為、行っていない。	○	必要性のある方がいらっしゃる場合には、柔軟に対応していきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望される医療機関と連携して、定期的または、必要なときに医療が受けられている。	○	
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	必要に応じて相談を行う様になっている。	○	
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	決まった訪問看護が週に1回来ている、その際にアドバイスを受けてケアに活かしている。	○	
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	医療機関や家族、管理者との話し合いにより行えている。	○	
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	法人内での勉強会などでの意識付けや共有は出来ているが、事例が少ないため把握しがたい点もある。	○	ターミナルケアに向けた勉強会を実施してゆく。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	法人内での勉強会などでの意識付けや共有は出来ているが、事例が少ないため把握しがたい点もある。	○	ターミナルケアに向けた勉強会を実施してゆく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	他のサービス利用時はサマリー等で情報を提供しているが特に病院入院などになった場合にダメージが少ない状態とは言い難いところがある。	○	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	さりげない言葉かけや対応を行っているが、個人情報での取り扱いでは記録物が置きっ放しにしている事がある。	○	記録物を離れるときには、徹底して所定の場所へ戻す。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の状況に合わせて意思の疎通を行ったり、本人が自ら選択できるような言葉かけを行いながら自己決定できるよう支援している。	○	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望に沿った暮らしを支援できるように努めているが、業務の関係や他者との関わりで希望に添えない場合もある。	○	特に入浴のときに順番が重なってしまい待たせてしまうことがある、待っている間の時間の過ごし方など工夫してゆく。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	希望される美容室へ行っている、外出や行事の時にはおしゃれを楽しんでもらえるように化粧なども勧めている。	○	時々、寝癖をつけたままリビングに来られたり、汚れたままの衣類を着ている事があるので気をつけたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ひとりひとりの好みなどを把握して、提供したりしている、調理の参加では能力の差があるので役割にも偏りがある。	○	能力に応じて、少しでも多くの方に参加してもらえよう支援してゆく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	特に食事などの制限がなければ、好みに応じてお菓子、お酒など提供している。	○	ある程度は行っているが、全員が行えるようにしたい。
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個別で排泄チェック表により排泄パターンを把握して、失敗することがないように支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一番に入浴されたい方の希望が多いため、曜日別に決めている。	○	入浴を待っている時間の過ごし方を検討してゆく。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	朝夕の申し送りで情報を把握して、静と動のバランスを考えて支援している。		
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	それぞれの能力や生活歴などから配慮して役割を持ってもらっている、寝たきりになりやすい方への楽しみごとの支援が不足している。	○	家族へ呼びかけを行い、活動量を増やしてゆけるようにする、状態やその人にあった楽しみごとへの支援を充実させる。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人で少ない金額ではあるが財布にもっており、買い物ができるようにしている。		


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームでの定期的な行事、日常の外出や散歩、外気浴など支援している、買い物へ行かれる方が同じ方に偏っている。	○	同じ方でなく、違う方も買い物へ出かけられるよう支援してゆく。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	全員での外出や希望があれば個別での外出も支援している、自宅への外出を希望される方で家族の協力が得られない例もある。	○	年に1回は個人の希望を聞いて出かけられるよう支援する、家族へも働きかけて実家や遠方への外出も試みたい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて随時電話はかけられる、状態に応じて手紙を書いて送るなどの支援もしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家庭的な雰囲気心をかけて装飾をしたり、面会時間も制限なくいつでも訪問できるようにしている。	○	
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内の勉強会、身体拘束廃止委員会を中心にマニュアルを通じて意識を高めている。しかし、全員が正しい理解が出来ているか完全でない部分がある。	○	
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関や門は開放している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、 昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全 に配慮している	プライバシーに配慮しながら昼夜、所在の確認、 安否の確認を行っている。	○	
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではな く、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取 り組みをしている	刃物、洗剤などは目に付かない場所へ保管してい る、個人のは能力に応じて管理してもらって いる、ホームの備品は毎日2回物品チェックを 行っている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ ための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた 事故防止に取り組んでいる	マニュアルに沿って対応できるよう、勉強会など で把握に努めているがすべての職員が緊急時に対 応出来るかは言い難い。	○	熟知できるよう勉強会の頻度を考えてゆ く
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職 員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っ ている	入職前のオリエンテーションの他、法人内の看護 師による講習会を設けて対応できるようある程度 は把握しているが熟知できていない職員も多い	○	勉強会の機会を定期的に設けて熟知でき るよう実施してゆく
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わ ず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろ より地域の人々の協力を得られるよう働きかけ ている	火災による避難訓練は毎月を実施しており消防 の強力も得られているが、地域の方の参加は得られ ていない、火災以外の訓練が行えていない。	○	地域の方の協力も得ながら、火災以外の 訓練も行ってゆく。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族 等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした 対応策を話し合っている	状態によって管理者やケアマネより家族の方への 説明を行い理解して頂ける様に話を行うようにし ている。また、日々の中で転倒など起こった場合 など、その都度報告行うようにしている。	○	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日の申し送りや記録物での情報を共有している、医療機関や家族との連携も図れている。	○
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	必要に応じて薬表で確認しているが、全部の種類 の理解には乏しい。	○ 薬の内容や、副作用などについて学んでゆく
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘の原因・影響などは日常的に又は勉強会などを通して周知しており、食材などについても管理栄養士に相談しながら取り入れる工夫を行うようにしている。	○ 運動に対して少なめな部分がある為、身体を動かせるような工夫を行う。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアチェックを行っている、介助の必要な方への支援や本人に合わせた対応を行っている。	○ 自立されている方や口臭のある方への働きかけの工夫するようになる。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、食事、食材チェック表を用いて、不足しているものはそれに変わるものを用意して対応している、管理栄養士によるアドバイスも受けている。	○
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染予防マニュアルに基づき対応できるようにしている、外部からの出入りにも注意して手洗いやうがいを呼びかけている。	○

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	管理栄養士の指導の下で器具の消毒や食材の管理の徹底を行っている、冷蔵庫は毎日掃除して、食材の期限も確認している。	○	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	日中は玄関や門は開放しており、いつでも出入りしやすいようにしている、表札も季節ごとに工夫したり親しみやすいようにしている。	○	
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに貼り絵などを制作して、居室やリビングに飾ったり、夏場にはよしずを活用したり居心地よく過ごせるように配慮している。	○	
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に居室を行き来してもらっている、椅子を設置して一人での空間を大切に出来るようにしている。	○	
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅時より利用されていたリネンや家具などを持ち込んで使用してもらっている、本人の使いやすように配置したり過ごしやすい雰囲気大切にしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気の時間を徹底して行っている、必要に応じてお香も使用している。	○	換気前と後での温度差に注意して、空調で速やかに対応してゆく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし て、安全かつできるだけ自立した生活が送れる ように工夫している	家具などの配置や角などに保護シートを取り付け たりして安全に配慮している、状態に応じてベッ トに介助バーを設置している。必要に応じてPTの 助言を頂いている。	○	
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失 敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫してい る	カレンダーにその日の予定を書いて掲示したり、 行事のときなど、その都度に説明を行っている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだ り、活動できるように活かしている	中庭にベンチや椅子を設置してある、ベランダに て園芸を楽しんでいただいたりしている。	○	今後ベンチ・テーブルなどを増やしてい く予定である。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目

項目		回答
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	① ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	③ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	① ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	② ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	② ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	① ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない

項目		回答
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	① ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	① ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	③ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	② ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	② ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	② ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	① ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・それぞれのペースを乱さないで、その人らしく生活できるように取り組んでいる。入居者中心のケアを行っていけるようにしている。